

## 就職活動中の大学生(\*)の 就職活動に関する意見について

―「リクナビ会員の大学生(2012年3月卒業予定)の就職活動に関する調査」より―

\*本調査は、リクナビ会員を対象としています。詳細は調査概要(P.3)をご参照ください。

株式会社リクルート(本社:東京都千代田区 代表取締役社長兼CEO 柏木 齊)では、就職活動中の大学生の就職活動に関する意見を明らかにするため、2012年3月卒業予定の大学生を対象に、調査を実施いたしました。このたび調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

### 【就職活動に関する学生の意見】----- (P.3-4)

就職活動中の学生に、就職活動に関する考え方やルールなどについて聞くと、活動開始時期については、7割前後の学生が、「情報収集・企業研究・自己分析は3年生の10月以前でも早すぎない」と回答。

また就職活動の優先度については、7割強の学生が「学生生活に負担をかけるものだ」と回答する一方、7割弱の学生が「十分な時間をかけるべきものだ」と回答。

大卒求人倍率調査2010(\*)が、従業員規模によって異なるという事実をふまえ、8割弱の学生が「中小企業も視野に入れて活動したい」と回答。

※「大卒求人倍率調査2010」:株式会社リクルート ワークス研究所調べ(詳細は調査概要をご参照ください)  
この調査によると、求人倍率は、従業員規模5,000人以上:0.47倍/従業員規模300人未満:4.41倍となっています。  
就職希望者数の推計方法など、詳細については、調査概要(P.3)の資料参照先URLからご参照ください。

### 【就職活動において、企業を選ぶ際に重視する点】----- (P.5)

学生が企業を選ぶ際に重視する点は、「やりたい仕事ができる」「仕事もプライベートも充実させられる」「一緒に働きたいと思える従業員がいる」「自分を大きく成長させられる」。

【本件に関するお問い合わせ先】

[https://www.recruit.jp/support/inquiry\\_press.html](https://www.recruit.jp/support/inquiry_press.html)

## ■ 目次

- I：就職活動に関する学生の意見 -----P.3-4
  - 就職活動に関する考え方やルールなどについて
  - 大卒求人倍率調査の、従業員規模による差について
- II：就職活動において、企業を選ぶ際に重視する点 -----P.5

## ■ 調査概要

リクナビ会員の  
大学生(2012年3  
月卒業予定)の  
就職活動に  
関する調査

- 主体： 株式会社リクルート HRカンパニー
  - 目的： 就職活動中の学生の、就職活動に関する意見を把握し、関係各位の参考に供する
  - 時期： 2010年11月24日～12月6日
  - 方法： WEB調査
  - 対象： リクナビ2012会員のうち、2012年3月卒業予定の大学生 305,109名にメールで通知
  - 集計対象数： 2,073サンプル(回収率:6.8%)
- 集計結果を母集団の比率に合わせるため、「平成22年度学校基本調査(速報値)」(文部科学省調べ)より、大学生の民間就職希望者数の文理×男女の構成比を算出し、分析に用いるサンプルの男女構成比がその比率と同じになるように、ウエイトをかけて集計した。

		回収数	回収数の比率
文系	男性	429	20.7%
	女性	914	44.1%
理系	男性	336	16.2%
	女性	394	19.0%
総計		2,073	100.0%

学校基本調査	ウエイト係数
37.8%	4.19
34.9%	1.81
19.1%	2.70
8.3%	1.00

【参考】  
大卒求人倍率  
調査2010  
(P.4にて引用)

- 主体： 株式会社リクルート ワークス研究所
  - 目的： 2011年3月卒業予定の大学生および大学院生に対する、全国の民間企業の採用予定数の調査、および学生の民間企業への就職意向の調査から、大卒者の求人倍率を算出し、新卒採用における求人動向の需給バランスを明らかにする
- |    |  |
|----|--|
| 企業 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 時期： 2010年2月16日～3月10日</li> <li>■ 方法： 電話・FAX調査</li> <li>■ 対象： 従業員規模5人以上の民間企業 7,142社</li> <li>■ 集計対象数： 4,460社(回収率:62.4%)</li> </ul>              |
| 学生 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 時期： 2010年2月3日～2月17日</li> <li>■ 方法： WEB調査</li> <li>■ 対象： リクナビ2011会員のうち、2011年3月卒業予定の大学生・大学院生</li> <li>■ 集計対象数： 大学生11,640人、大学院生3,045人</li> </ul> |
- 資料参照先：<http://c.recruit.jp/library/job/J20100421/docfile.pdf>

## ■ I： 就職活動に関する学生の意見

7割前後の学生が「情報収集・企業研究・自己分析は、3年生の10月以前でも早すぎない」と回答。

- 就職活動に関する考え方やルールなどについて、A/Bで対立する項目を挙げると、各活動の開始時期については、7割前後の学生が「情報収集・企業研究・自己分析は、3年生の10月以前でも早すぎない」と回答。

また就職活動の優先度については、7割強の学生が「学生生活に負担をかけるものだ」と回答する一方、7割弱の学生が「十分な時間をかけるべきものだ」と回答。

A		「A」計	Aに近い	どちらかといえばA	どちらかといえばB	Bに近い	「B」計	B	
1	就職活動の優先度	学業との両立は不可能だ	46.2%	10.4%	35.7%	36.5%	17.3%	53.8%	学業との両立は可能だ
2		学生生活に負担をかけるものだ	74.6%	32.8%	41.7%	18.0%	7.4%	25.4%	学生生活を豊かにするものだ
3		十分な時間をかけるべきものだ	66.8%	28.6%	38.2%	22.4%	10.7%	33.2%	なるべく早く終わらせるものだ
4		就職活動中は、何よりも就職活動を優先すべきだ	56.2%	15.0%	41.2%	31.6%	12.3%	43.8%	就職活動中であっても、何よりも学業を優先すべきだ
5	就職活動に役立つこと	講義・ゼミで学んだことが役に立つ	50.8%	14.5%	36.3%	33.3%	15.9%	49.2%	講義・ゼミで学んだことは役に立たない
6		部活・サークルで学んだことが役に立つ	65.3%	25.8%	39.5%	21.7%	13.0%	34.7%	部活・サークルで学んだことは役に立たない
7		アルバイトで学んだことが役に立つ	78.3%	33.5%	44.7%	14.9%	6.8%	21.7%	アルバイトで学んだことは役に立たない
8	各活動の開始時期	情報収集を始めるのは、3年生の10月以前だと早すぎる	32.1%	16.7%	15.4%	31.8%	36.1%	67.9%	情報収集は、3年生の10月以前であっても早すぎるということはない
9		企業研究を始めるのは、3年生の10月以前だと早すぎる	35.7%	16.5%	19.2%	31.8%	32.4%	64.3%	企業研究は、3年生の10月以前であっても早すぎるということはない
10		自己分析を始めるのは、3年生の10月以前だと早すぎる	27.7%	12.3%	15.5%	34.4%	37.9%	72.3%	自己分析は、3年生の10月以前であっても早すぎるということはない
11	その他	家族や親族の意見をふまえて決めるべきだ	35.8%	6.9%	28.9%	40.5%	23.7%	64.2%	自分の考えで決めるべきだ
12		就職活動が厳しいと騒がれているのは、現状のルールや慣行のせいだ	60.3%	21.2%	39.1%	27.3%	12.4%	39.7%	就職活動が厳しいと感じるのは、自分のせいだ

各項目について、「Aに近い」「どちらかといえばA」「どちらかといえばB」「Bに近い」を選択し、選択率を算出。「Aに近い」「どちらかといえばA」の合計を「A」計とし、「どちらかといえばB」「Bに近い」の合計を「B」計とした。

表では、各項目の選択率のなかで最も高い数字に濃い網がけ、次に高い数字に薄い網がけしている。

## ■ I： 就職活動に関する学生の意見

大卒求人倍率調査の従業員規模による差をふまえ、8割弱の学生が「中小企業も視野に入れて活動したい」と回答。

- 「大卒求人倍率調査2010(※)」の結果が、従業員規模によって異なるという事実をふまえ、51.3%が「それでも大企業を中心に活動したい」と回答しており、また77.9%が「中小企業も視野に入れて活動したい」と回答。

※ 「大卒求人倍率調査2010」：株式会社リクルート ワークス研究所調べ

この調査によると、求人倍率は、従業員規模5,000人以上：0.47倍／従業員規模300人未満：4.41倍となっています。就職希望者数の推計方法など詳細については、調査概要(P.3)の資料参照先URLからご参照ください。

(凡例)	あてはまる計	どちらとも いけない	あてはま らない計
それでも大企業を中心に 就職活動したい	51.3%	17.5%	31.2%
中小企業も視野に入れて 就職活動したい	77.9%		9.4%

各項目について、「全くあてはまらない」「あまりあてはまらない」「どちらともいけない」「ややあてはまる」「かなりあてはまる」を選択し、選択率を算出。「全くあてはまらない」「あまりあてはまらない」の合計を「あてはまらない」計とし、「ややあてはまる」「かなりあてはまる」の合計を「あてはまる」計とした。

- 上記2項目への回答について分布をみると、35.4%の学生が、「大企業を中心に就職活動したい」と「中小企業も視野に入れて就職活動したい」両方に対し、あてはまると回答。また29.3%の学生が、「大企業中心に就職活動したい」にはあてはまらないが、「中小企業も視野に入れて就職活動したい」にはあてはまると回答。

それでも大企業を 中心に 就職活動したい	あてはまる計	8.0%	7.9%	35.4%
	どちらとも いけない	0.2%	4.1%	13.3%
	あてはま らない計	1.2%	0.7%	29.3%
		あてはま らない計	どちらとも いけない	あて はまる計

上記2項目「それでも大企業を中心に活動したい」「中小企業も視野に入れて就職活動したい」について、クロス集計を行った。

それぞれの回答者数を、全体のサンプル数で割って比率を算出し、比率が高い2項目に網がけした。

中小企業も視野に入れて  
就職活動したい

## ■ II： 就職活動において、企業を選ぶ際に重視する点

企業選びで重視する点は、「やりたい仕事ができる」「仕事もプライベートも充実させられる」「一緒に働きたいと思える従業員がいる」「自分を大きく成長させられる」。

### ● 就職活動において、企業を選ぶ際に重視する点を聞いた。

上位4項目は、「自分がやりたい仕事ができる」「一緒に働きたいと思える従業員がいる」「仕事もプライベートも充実させられる」「自分を大きく成長させられる」であった。

	1	2	3	4	5	平均値
1 企業戦略やビジョンがすぐれている				4		4.0
2 順調に業績を伸ばしている				4		3.8
3 売上や利益が高い				4		3.6
4 工場等の設備や研究所等の施設が充実している				4		3.3
5 職場が美しく快適である				4		3.8
6 たくさんの優良顧客を持つ				4		3.5
7 社会や地域に貢献している				4		4.0
8 技術や特許など、多くの知的財産を持っている				4		3.4
9 企業そのものや商品がブランドとして広く認知されている				4		3.5
10 経営者が魅力的である				4		3.9
11 優秀な人材が多い				4		3.9
12 給与・福利厚生など待遇がよい				4		4.1
13 雇用が安定している(失業の心配がない)				4		4.1
14 仕事の成果や業績が正当に評価される				4		4.2
15 自分がやりたい仕事ができる				4		4.4
16 仕事や研修を通じて専門的知識や技術が身に付く				4		3.9
17 自分の経験・専門が活かせる				4		3.6
18 世の中に影響を与える仕事ができる				4		4.0
19 責任のある仕事をまかせてもらえる				4		3.7
20 家族・友人などに自慢できる				4		3.2
21 仕事を通して幅広い人脈形成ができる				4		3.9
22 職場に活気がある				4		4.2
23 勤務地が便利(よい)／通勤が便利				4		3.9
24 性別の区別なく、待遇や挑戦の機会などが平等である				4		4.0
25 出産・育児に関する支援制度が充実している				4		3.8
26 仕事もプライベートも充実させられる				4		4.3
27 個人の挑戦が尊重される				4		3.8
28 自分を大きく成長させられる				4		4.3
29 一緒に働きたいと思える従業員がいる				4		4.3
30 グローバルに活躍できる				4		3.2

各項目について、「全くあてはまらない」1点、「あまりあてはまらない」2点、「どちらともいえない」3点、「ややあてはまる」4点、「かなりあてはまる」5点で得点化し、平均値を算出した。表では、平均値の高い順に、上位4項目に網がけしている。